GM 鶴牧-3 環の会

第 55 回クラシックを楽しむ会

2018 年 6 月 17 日（日）18:00～（2 時間 36 分、休憩除く）

タイトル：**歌劇「オテロ」（ヴェルディ）**

英国ロイヤル・オペラ 2017 公演
2017 年 6 月 24 日

会場等　：英国ロイヤル･オペラ･ハウス
楽団等　：英国ロイヤル･オペラ･ハウス管弦楽団
合唱　　：英国ロイヤル･オペラ合唱団
指揮　　：アントニオ･パッパーノ
演出　　：キース･ウォーナー
出演　　：ヨナス･カウフマン（オテロ）
マリア･アグレスタ　（デズデーモナ）
マルコ・ヴラトーニャ（イアーゴ）
フレデリック・アントゥーン（カッシオ）
その他

第 3 幕、オテロ召喚の命令書を携えたヴェネツィア大使を迎える

あらすじ

総督オテロは、部下のイアーゴの策略により、愛する妻デズデーモナの誠実さを疑うようになる。デズデーモナへの愛とイアーゴの巧みな嘘の間で葛藤するオテロは、妻が自分を裏切っているのではと思いつめ精神的な均衡を崩していく――。

第 3 幕、デズデーモナ（左）の不貞を信じたオテロ（右）　は妻を突き倒す

第 3 幕、カッシオ（左）に例のハンカチを取り出させるイアーゴ（右）

第 56 回クラシックを楽しむ会（予告）

タイトル：**歌劇「アンドレア･シェニエ」（ジョルダーノ）**

7 月 15 日（日） 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ミラノ･スカラ座 2017／18 シーズン開幕公演。出演はユシフ･エイヴァゾフ、ルカ･サルシ、そしてアンナ･ネトレプコ。指揮はリッカルド･シャイー。なお、タイトルロールのエイヴァゾフはネトレプコの夫君。

8 月はヴェローナ野外オペラ 2017「ナブッコ」。9 月以降ザルツブルク復活祭音楽祭 2017「ワルキューレ」、マリインスキー劇場 II 2017「くるみ割り人形」、ザルツブルグ音楽祭 2012「ボエーム」などを予定。

あらすじ

【時と場所】

15 世紀末、地中海東部のキプロス島（当時はヴェネツィア共和国が支配）

【主要人物】

オテロ(T)	ヴェネツィア共和国キプロス島の総督、アフリカ出身の黒人（ムーア人）
デズデーモナ (S)	オテロの妻、ヴェネツィア貴族の娘
イアーゴ(Br)	オテロの旗手
カッシオ(T)	オテロの副官
エミーリア(Ms)	デズデーモナの侍女、イアーゴの妻
ロデリーゴ(T)	ヴェネツィアの貴族、デズデーモナに失恋していた
モンターノ(Bs)	キプロスの前総督
ロドヴィーコ(Bs)	ヴェネツィアの大使

【第 1 幕】キプロスの港

激しい嵐の中、将軍オテロ率いるヴェネツィア艦隊が、トルコに勝利してキプロス島に帰還。オテロが上陸し**「喜べ！傲慢な回教徒は海中に沈んだ」**を歌う。群衆は勝利に沸くが、オテロの旗手イアーゴは、ライバルのカッシオを副官に出世させたオテロを憎んでいる。そこでイアーゴは、酒に弱いカッシオを酔わせて喧嘩を起こさせ、仲裁に入った前総督モンターノを傷つける。騒ぎに駆けつけた将軍オテロは、カッシオを副官から解任する。舞台にはオテロと妻デズデーモナだけが残り、愛の二重唱**「すでに夜も更けた」**を歌う。

【第 2 幕】庭園に面する城の一室

副官を解任されて落ち込むカッシオに、イアーゴはデズデーモナに取りなしを頼むように勧める。カッシオが去ると、イアーゴは、神よりも悪魔を信ずると信条のアリア**「無慈悲な神の命ずるままに」**を歌う。その一方で、イアーゴはオテロに、デズデーモナとカッシオの仲が怪しいと吹き込む。デズデーモナからカッシオの復職を頼まれたオテロは、妻を疑い始めていら立ち、デズデーモナが差し出したハンカチを振り払う。イアーゴは、落ちたハンカチを拾ったイアーゴの妻でデズデーモナの侍女エミーリアから、ハンカチを奪い取る。オテロは嫉妬に苦しみ**「清らかな思い出は遠いかなた」**と独白。イヤーゴはオテロに、デズデーモナのハンカチをカッシオが持っていたと報告。オテロは忠誠を誓うイヤーゴと共に復讐に燃え二重唱**「神かけて誓う」**を歌う。

【第 3 幕】 城の大広間

デズデーモナが再びカッシオの復職を頼んできたため、オテロは彼女を娼婦呼ばわりして部屋から追い出す。イアーゴはカッシオに愛人の話をさせるが、陰でその話を聞くオテロには妻との情事の話だと思わせる。さらに細工して、カッシオにハンカチを持たせる。妻の不義を確信したオテロに、ヴェネツィアへの召還の辞令が下される。後任はカッシオと聞き衝撃を受けるオテロは、大勢の前でデズデーモナを罵倒したのち正気を失い倒れる。

【第 4 幕】 デズデーモナの寝室

デズデーモナはエミリアと床に就く用意をしている。死を予感するデズデーモナは「もし死んだら婚礼の衣装で身を包んでほしい」とエミリアに頼み、悲しいアリア**「柳の歌」**を歌う。エミリアが去るとアリア**「アヴェ・マリア」**を歌って神に祈る。部屋に戻ったオテロは眠る妻に口づけする。目覚めた妻に不義を責めて絞殺。エミリアが「カッシオがロデリーゴを殺した」と急を告げに戻ってくるが、デズデーモナが殺されているのを発見し、驚いて人々を呼ぶ。エミリアは「イアーゴが私からハンカチを奪った」と証言し、ロデリーゴが死ぬ前に陰謀の全てを白状した事実も明らかになる。形勢不利とみたイアーゴは遁走し、イアーゴの陰謀と妻の無実を悟ったオテロは自刃し、妻の遺体に最後の接吻を求めつつ息絶える。

合唱の名曲

第 1 幕の幕あけ、嵐に巻き込まれるオテロの艦隊を陸上から見る部下と市民の合唱**「帆だ、帆だ」**、続いて戦勝の凱旋のさわぎの市民の合唱**「よろこびの火」**。イアーゴ、カッシオのソロ＋合唱**「乾杯の歌」**。
第 2 幕、テスデーモナを囲んで、市民、兵士たちの賛美のセレナーデ**「まなざしの光り輝くところ」**。

出演者

ヨナス・カウフマン

マリア・アグレスタ

マルコ・ヴラトーニャ

フレデリック・アントゥーン

ヨナス・カウフマン（オテロ）は 1969 年生まれのドイツ出身テノール歌手。テノールには珍しい暗く重い声質と、端正な容姿で世界的に人気が高い。レパートリーは幅広く、母国ドイツのワーグナーなどのみならず、イタリアオペラ、フランスオペラ、歌曲など多くの作品を歌い、世界中の大歌劇場やバイロイト音楽祭などで活躍を続けている。キャンセルが多く生で聴くことが難しい歌手としても知られる。

アントニオ・パッパーノ

マリア・アグレスタ（デスデーモナ）は 1978 年生まれのイタリア出身ソプラノ歌手。ミミ、ミカエラ、ヴィオレッタ、リューなど多くのレパートリーをもち、メトロポリタン歌劇場やスカラ座など欧米の主要歌劇場で活躍している。メゾソプラノとして声楽を学んだが後にソプラノに転向した。

マルコ・ヴラトーニャ（イアーゴ）はイタリア生まれのバリトン歌手。ウィーン国立歌劇場、スカラ座など欧米主要歌劇場で、スカルピア、アモナズロ、ルーナ伯爵などを歌っている。

フレデリック・アントゥーン（カッシオ）はカナダ生まれのテノール歌手。

キース・ウォーナー

アントニオ・パッパーノ（指揮）は 1959 年生まれのイタリア人指揮者。2005 年より聖チェチーリア国立音楽院管弦楽団の音楽監督に就任している。イタリア共和国功労勲章を受け、エリザベス女王よりナイトに叙せられている。

キース・ウォーナー（演出）はロンドン生まれの演出家、芸術監督。2011 年にはデンマーク王立歌劇場の芸術監督に任命された。

参考資料

ヴェルディの「オテロ」

ヴェルディは「アイーダ」の大成功後、晩節を汚さないよう 16 年間故郷ブッセート近くの農園で隠遁生活を送っていたが、すぐれた台本作者**ボイト**達の熱心な働きかけで、70 歳になってから「オテロ」の作曲に着手した。作曲開始から 4 年後の 1887 年、ミラノ・スカラ座で当時の最高の顔ぶれをそろえて初演、圧倒的な大成功を収め、ヴェルディの最高傑作となった。ボイトのすぐれた台本はシェイクスピアの悲劇をほぼ完ぺきに表現している。

台本作者ボイト

シェイクスピアの「オセロ」

歌劇「オテロ」(Otello)の原作「オセロ」（Othello）はシェイクスピアの四大悲劇の一つで副題は「ヴェニスのムーア人」。もっとも古い上演記録は 1604 年。

ヴェニスの軍人オセロが、旗手イアーゴの奸計にかかり、妻デズデモナの貞操を疑い殺すが、真実を知ったオセロは自殺するという話で、歌劇はほぼ原作通り。

「オセロ」の原典は 1566 年ヴェニスで刊行された**ツィンツィオ**の［百物語」第 3 編第 7 話である。この物語の登場人物はデズデモナ（ギリシャ語で「不運な」の意味）以外はムーア人、旗手などと呼ばれていて名前はない。

「オセロ」表紙

シェイクスピアと原典

シェイクスピアの戯曲「オセロ」は 1604 年の出版。ツィンツィオの原典「オセロ」（1566 年）はイタリア語（英訳は 1753 年）で、イタリア語が読めないシェクスピアがどうして読めたのか説明がついていない。

主題「嫉妬」について

ツィンツィオ原典では、イアーゴを、デスデーモナに惚れて振られた平凡な男として書いている。
妻を殺したあと、イアーゴを憎み、彼を免職し、更に複雑な経過をへて、デスデーモナの親戚によりムーアの死が発生する。単なる嫉妬による殺人の物語にすぎない。

シェクスピア戯曲のオセロには 21 回も「嫉妬」がでてくると数えた人がいる。嫉妬は「嫉妬はまなじりを緑の炎に燃え上がらせた怪獣、人の心を餌食にし、それを苦しめ喜ぶ」。真実を知ってオセロは自害する。「潸然とした涙をながして」、と台詞にある。本性をえぐられ、判断を誤り、嫉妬に狂い、殺人を犯してから真実に気づく。イアーゴは死なない。

ボイドの台本では、シェクスピアより激しい台詞「嫉妬にはご注意。それは陰気な青ざめた蛇、盲目の蛇、青い蛇、毒をもつ蛇。自らに毒をもり、はげしい、激しい病となり、腹をひきさく蛇」と「嫉妬」を強調している。

物語の舞台と時代背景

キプロス王国成立までのキプロス島

キプロス島は東地中海最大の島で前 15 世紀には古代エジプトの支配下に入り海上交易の拠点として繁栄。その後さまざまな勢力が交差した。12 世紀からは十字軍に翻弄され、十字軍の主力テンプル騎士団の拠点として 1192 年、フランク人がキプロス王国を建国した。その後、イスラムのマムルーク朝の属国に甘んじ、ネツィア共和国商人に経済を握られるようになった。

北キプロス・トルコ共和国にある**キレニア城**は十字軍が築城しヴェネチア共和国が 16 世紀に改築したものである。

*シェクスピアは「オセロ」の舞台を**「キプロスの港」**としか書いていない。なお、東部**ファマグスタ**に**「オセロの塔」**があるが、このオセロは実在したヴェネツィア総督の名前であり、戯曲の舞台とはいえないが、観光地のページには戯曲の舞台と記載されている。

キプロス島、赤印はキレニア城の位置

キプロス島のキレニア城、左の円塔は 16 世紀に改築

十字軍とヴェネツィア共和国

強大な海軍力をもつヴェネツィアは十字軍を利用して莫大な富を得、暴虐を極めた第 4 次十字軍とともに略奪、殺戮、凌辱の限りを尽くして東ローマ帝国を滅ぼし、ライバルのジェノヴァ艦隊を破って 14 世紀末までに東地中海の覇者となった。しかし、東からオスマン帝国が勢力を伸ばし、ヴェネツィアはエーゲ海の要衝ネグロポンテを 1470 年に失った。

なお、当時のヴェネツィア海軍は全てヴェネツィア人であり、物語のようなムーア人の総督はありえない。

15 世紀末のキプロス王国と女王カタリーナ

キプロス王国では後継者争いの中でヴェネツィア貴族の名門コルナーロ家が影響力を増していた。キプロス王国のジャック 2 世はコルナーロ家の娘カタリーナ・コルナーロを妻にして王位に就いたが、男子を得た直後に病死、その子も夭逝してカタリーナが女王となった。1489 年、カタリーナはキプロスを母国ヴェネツィアに譲渡させられた。

キプロス女王カタリーナのヴェネツィア帰還